



報 会 夏 一



鶴見大学学長
木村 清孝

写本の意義と図書館の役割 — 仏教写本を例として —

司書・司書補講習を修了された皆さん、お疲れ様でした。天候不順の夏を講習に明け暮れた皆さんには、敬服します。

この講習は、ちょうど、いつもはそれぞれに修行を積み、夏の雨期の間だけ積尊のもとに集まって一緒に修行した（これを夏安居といいますが）仏教の修行僧たちのありよう

として、敬服します。では、仏教のテキストは、どのような形で成立し、傳承されてきたのでしょうか。

仏教文献は、大きく経（ブツダの教説）・律（教団の規則）・論（経の注釈）の三種のグループに区別されます。合わせて「三蔵」といいますが、そのテキスト群は、言語的には、主に、パーリ語・サンスクリット語・漢語（古典中国語）・チベット語の四種のもので伝えられてきています。けれど

も、それらに含まれているものだけが、仏典のすべてではありません。もともと、ブツダの教えとしての「経」と、教団内の約束事としての「律」は、直接言葉で伝えられ、耳で聞きとられ、記憶にとどめられ、相互に確認される、という形で傳承されました。その後、「経」の意味を明確にするという意図のもとに、基準となる解釈がなされるようになりました。これが、「論」と呼ばれるもの

です。ブツダの死から数百年後、新たに興った大乘仏教の運動の中でも、次々と「経」や「論」が生み出され、それらを含めて、「三蔵」の文字化が始まりました。そして、それら

の仏典が、初めはもっぱら書写によって傳承されていきました。「仏典写本」の誕生です。

ちなみに申し上げますと、その書写の媒体は、インドでは、最初は貝多羅樹の葉（貝葉）が用いられました。ついで、インド北部などでは樺皮や動物の皮革なども使われ、後に多く紙に変わりました。

た。他方、中国では、すでに二世紀の初めに蔡倫によって紙が発明されていますから、仏典が翻訳・紹介された当初（二世紀後半）から、書写の媒体としては主に紙が用いられたと推測されます。なお、ある時期には、仏教弾圧による仏典の消滅を防ぐために、大規模な仏典の石刻も行われています。そして、このような書写の伝統は、中国や日本においては、その「功德」を信じる人々の根強い信仰に支えられ、現代にまで及んでおります。

現代の電子媒体によるテキストデータベース化です。まことに便利な時代になったものです。しかし、今でも私は、先人たちが心をこめて書き写し、受け継いできてくれた実物の仏典写本を見ると、その都度、深い感動を覚えます。それが歴史的資料として重要であるからというだけでなく、タイムスリップして、それぞれの時代を生き抜いた人々の生々しい息づかいをそれらから感じることからです。仏典写本のみならず、優れた写本を守り、機会を得て展示し、それらがもつ意義を多くの人たちに語りかけることも、図書館が果たす大きな役割の一つなのではないでしょうか。

と、その書写の媒体は、インドでは、最初は貝多羅樹の葉（貝葉）が用いられました。ついで、インド北部などでは樺皮や動物の皮革なども使われ、後に多く紙に変わりました。

た。他方、中国では、すでに二世紀の初めに蔡倫によって紙が発明されていますから、仏典が翻訳・紹介された当初（二世紀後半）から、書写の媒体としては主に紙が用いられたと推測されます。なお、ある時期には、仏教弾圧による仏典の消滅を防ぐために、大規模な仏典の石刻も行われています。そして、このような書写の伝統は、中国や日本においては、その「功德」を信じる人々の根強い信仰に支えられ、現代にまで及んでおります。

現代の電子媒体によるテキストデータベース化です。まことに便利な時代になったものです。しかし、今でも私は、先人たちが心をこめて書き写し、受け継いできてくれた実物の仏典写本を見ると、その都度、深い感動を覚えます。それが歴史的資料として重要であるからというだけでなく、タイムスリップして、それぞれの時代を生き抜いた人々の生々しい息づかいをそれらから感じることからです。仏典写本のみならず、優れた写本を守り、機会を得て展示し、それらがもつ意義を多くの人たちに語りかけることも、図書館が果たす大きな役割の一つなのではないでしょうか。

た。他方、中国では、すでに二世紀の初めに蔡倫によって紙が発明されていますから、仏典が翻訳・紹介された当初（二世紀後半）から、書写の媒体としては主に紙が用いられたと推測されます。なお、ある時期には、仏教弾圧による仏典の消滅を防ぐために、大規模な仏典の石刻も行われています。そして、このような書写の伝統は、中国や日本においては、その「功德」を信じる人々の根強い信仰に支えられ、現代にまで及んでおります。

現代の電子媒体によるテキストデータベース化です。まことに便利な時代になったものです。しかし、今でも私は、先人たちが心をこめて書き写し、受け継いできてくれた実物の仏典写本を見ると、その都度、深い感動を覚えます。それが歴史的資料として重要であるからというだけでなく、タイムスリップして、それぞれの時代を生き抜いた人々の生々しい息づかいをそれらから感じることからです。仏典写本のみならず、優れた写本を守り、機会を得て展示し、それらがもつ意義を多くの人たちに語りかけることも、図書館が果たす大きな役割の一つなのではないでしょうか。



鶴見大学司書・
司書補講習主任教授

岡田 靖

最後の砦

私は今（9月29日）講習係の諸君にせっつかれながら締め切りを2週間ほど過ぎたこの原稿を書いております。9月も末というのに蒸し暑く（私

が太っているせいばかりではないようです）クーラーをつけながらガンバ

ッテ？います。しかし、皆様がこれを読まれる頃は晩秋というよりは、地方によっては初冬に近く

なっているかもしれない。そして、あの夏の出

来事（？）が幻だったかのよう

に感じられて、この一夏会報と成績が送付されて来たことで、あの夏は幻ではなかったの

だと、ハッキリとあの暑

かった夏を思い出された

のではないのでしょうか。

そこでもう一つ思い出

して下さい。私が開講式

の際に図書館の世界はパ

ソコンは避けて通ること

は出来ませんと申し上げ

、そして閉講式ではパ

ソコンも大切だが人間関

係がもっと大切だと申し

上げたことです。それは

コンピュータに頼り切っ

ている現在、あたかも全

てがコンピュータで出来

てしまうような世の中の

風潮に対する反論です。

例えば何処かに旅行をす

るなどという、直ぐに

パソコンの前に座り（私

の頭の中のパソコンはデ

スクトップなのでこのよ

うな表現になってしま

います）Web上でグルメ

情報等を探し始めます。

次には列車の時刻もWe

b上で調べ、予約までし

てしまいます。精度の問

題はあるにしても、なん

と便利なことよと思いま

す？しかし、私はそれが

出来ません。授業ではパ

ソコンを教えるはいます

が、自分の趣味に関して

はパソコンなどは使いま

元鶴見大学
短期大学部講師
高林 一美

コンピュータとの 係わり方

司書・司書補講習へ参加の皆様へ。

資格取得おめでとうございませう。皆様の努力が実り、資格が取得できた喜びはひとしおのことでしょう。ただ、資格取得はスタートラインです。特に図書館の世界・そして情報機器の世界は変化の激しい分野ですので、これからも日々の研鑽を継続していただきたいと思ひます。実際、コンピュータやネットワーク技術の進歩により私たちが取り巻く環境は大きく変化してゐます。昨年6月に「図書館法」が改正されましが、ここでは図書館経営関係とならんで情

報関係の強化が改正の重点ポイントとなつてゐます。これは、これまで以上に図書館員も情報機器であるコンピュータとネットワークの技術が求められてゐることの現われでしょう。そこで、今後求められるコンピュータやネットワークとの係わり方のポイントを2つあげてみました。

第一に、図書館利用者によりよいサービスを提供するために、継続的にコンピュータに関する知識と技術を習得する姿勢を持つて下さい。コンピュータのプロフェッショナルになるために知識を習得するのではなく、利用

者が創設されました。上記サイトには、「ITを正しく理解し、業務に積極的に活用し、付加価値を生み出していけるか」「職場内の課題を把握・分析し、そして解決するためITをどのように活用すれば有効かを理解しているか」「ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を備えているか」の視点から、働く人だけしもが必要となるIT知識を身につけておくことこそ、これからは必要」と書かれています。このような背景もあり「ITパスポート」試験が作られました。試験範囲には、単にコンピュータの知識だけでなく、経営戦略的な内容も含まれてゐます。今年4月の第1回目の試験には、4万人近く様々な業務分野の方が受験しました。情報処理試験なんて専門外などと食わず嫌いをせず、レベルの確認や向上にこのよ

うか。第二に、社会の変化に応じて、図書館もコンピュータを活用したサービスを作り出すという視点をもつということですが、世の中には新たなサービスが誕生してゐます。この変化の流れと図書館も無縁ではいられないでしょう。例えば、既に商用の書籍購入サイトで提供されているレコメンドサービスの応用として「資料詳細画面を開くと『この本を借りた人は他にこんな本を借りてゐます』という情報が表示される」や「自分の興味関心のある分野をあらかじめ登録しておく」と、資料新着時にメールが届く」などが考えられます。利用者側の要望として、日常受けてゐるサービスと同様なものを求めてくることは十分予想されます。このように、ネット上の情報に対するレ

スに加えて、図書館も積極的に情報公開をするという方向でのインターネット利用も増えてくるでしょう。もちろん、図書館独自のサービスのあり方との兼ね合いもあります。しかし、図書館の中から外の世界を見て、今後どのようなサービスが望まれてくるかという傾向をウォッチする姿勢を是非持つていただきたいと思ひます。

最後に、皆様の真剣で熱い取り組みに接して、私自身も、日々の研鑽の思いを新たにできました。ありがとうございます。



鶴見大学図書館
参事補
鈴木 誠

1冊の本と2人の師

長嶋茂雄が引退した1974年、大学4年の私は、卒業研究(卒論)のため某放送協会の世田谷にある研究所に通っていた。その研究所は、東大大学院出身者も多く、気詰まりな雰囲気ともなく、研究テーマの「弾性波光変調素子のコンピュータ解析」という研究(の真似事)を、配属された研究室のMさんの指導のもと、タバコを吸いながら文献を読んだり、バイトのお嬢さんに煎れてもらったお茶を飲みながらプログラムを書くなど、いたってマイペースに行っていた。施設・器材などは正規の研究員と同様に使用できるなど、

恵まれた環境であった。さらに研究室長のTさん《師その1》は一家言ある研究員を「知識とユーモア」でうまくコントロールしている、研究室の居心地が良いことが、ほぼ1年間という長い間、大過なく過ごせた最大の要因である。上司のお手本として深く心に刻まれたのでありました。Tさん、Mさん、その他の皆様、長い間お世話になりました。お陰様でどうにか生きています。勿論、受信料も払っています。

卒論を仕上げたものの就職先は無く、ゼミの教授に卒論の不受理を頼み、花の大学5年目がスタートした。何しろ卒論を受理して

もらえば卒業できるので、無為徒食の毎日、至福の日々。とはいっても、親の手前、就職を考えねばならず、「大学の先輩が社長だから」という教授の甘言にのせられ、次の年、某社に就職した。入社したものの、頼みの社長は実権がなく、会社自体も肌にあわず、入社早々3年目の就職活動をする羽目に陥った。日々の糧を稼ぐため、人に別称をつけることを唯一の楽しみ

に仕事をしていった。残業をしない係長「ミスター定時」、精気無く廊下を歩く「ついでに生きてる人」、寮の同室の「オリバー君(当時有名なチャップリンに因んで)」、同期の「A・面君

(伏字で勘弁してください)」など。奇縁ではあるが歯学部「A・面君」の兄上がいらして、会社の創業祭で野菜や日用品を買ったことがあるという話題になった。実は私が売り子をしていて、市価より大分安く100円位で売っていたが、飽きてしまい、全部10円で叩き売ってしまった。すぐ

完売したが、後で上司にこつり絞られた。就活をするうち、もう1年位は学校に、などとモラトリアムに走り、短大卒以上・1年間・国立、しかも自然科学の受験科目(化学、生物、数学(得意だと思っていた)から1科目選択)がある図書館短期大学別科の受験を決めた。しかし、休日出勤や深夜残業が多くなり、とても受験勉強ができる状態ではなかったが(当然、時間があってもしなかったが)、学費稼ぎと割り切って毎日働いていた。さて1冊の本はというと試験の当日、電車の中で読んでいた「生命の誕生(講談社ブルーバックス)」である。数学の問題をみた途端「む、難しい!」と唸り、居

屋で次の酒をどうしようと思わぶように、しばし考え込んでしまった。しかし、別科の試験は珍しくも問題をみてから科目を選択していいというもので、たまたま生物が、前述の本の内容で解答できる問題であった。これ幸いと何とか書き上げ提出した。

振ったところに球が来たという感じで、合格してしまったものの、別科生の学歴をみて驚いた。東大、東北大、早稲田、立教、お茶大、津田塾大学。でも、経歴は似たり寄ったり。社会人には向かないタイプ。変り者も多く、枕が変わると眠れないと靴の中に、いつも枕を詰め込んでいる者がいたりした。変り者の友達は、輪をかけて変り者で、その友達…その友達…変り者の無限連鎖。ただし、知識というか、学力というかは並ではなく、教授と学問上の喧嘩をした強者も。特に《師その2》と崇める最年長のSさんは、その中でも飛び抜けて

博識であった。私の知っていることは全て知っていて、私の知らないことも全て知っているくらい。毎日のように酒宴を開き、Sさんの話してくれるアカデミックな話題に酔い痴れていた(実状は酒に酔っていた?)。そのSさんに「君はトリックスターなんだよ。意味は自分で調べてご覧」と言われたことが、今も心に残っている。このようにして図書館《隣接》学の学習に邁進し、現在に至っているが、未だにTさん、Sさんの境地に遙かに達しないことを吐露して、中締めとしたい。



受講生

司書



司書講習を終えて

篠崎 智子

いま私の手には、形がすっかり崩れてしまった

学問成就のお守りがあります。司書講習の2ヶ月間、ジーンズのベルト通しに結び付けていたものです。このお守りは単に、神頼みのために持っていたわけではありません。その話をしたいと思いません。

講しようと思ったので

講しようと思ったので。そうしたい思いを胸に受講を決めたというのに、初日の講義の朝に私が考えていたことといえば、どこが試験と関係あるのかピンと来るだろうか、試験のヤマをどう張ろうか、ということばかりでした。しかし、最初の講義だった生涯学習概論の1限目から、単に試験のための勉強だと思っ

で、私は最後までこの

初心を忘れず、司書講習を終えることが出来ました。私のノートの端には、先生方が紹介してくださった図書館や本などについてのたくさんさんのメモが残されています。これらのメモは今後、自分で勉強を続けていくための道しるべとなってくれるでしょう。私をこのよう

三十八年の教員生活を

終え、さて何をしようかと考えました。私が最後に勤めた学校の図書館司書はとても素敵な方でした。図書館はいつも子どもであふれ、カウンターの前には長蛇の列です。私は「行列のできる学校図書館だね」と言っていました。卒業文集には「将来、図書館の司書になりたい」と書く子どもが何人もいました。私に彼女ほどのことはできません。第二はずもなければ、第二の人生、学校図書館司書に挑戦してみたいな、という軽いのでした。

久しぶりの学生生活は

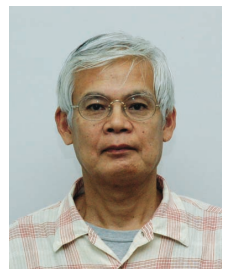
快適でしたが、研修はたいへんでした。体力、気力、視力、能力、記憶力、知力・およそ力のつくものはすべて衰えていました。伸びたのは脳天気なところだけ。それでも講師の先生方の話はおもしろく、図書館というのはこんなことをしているんだと驚くことばかり。先生方も個性豊かで、やり方も千差万別。それがまたおもしろいのです。課題や試験、演習に追われながらも充実した二か月でした。

分の書いた本をちゃんと納本したので私が死んでも本は残ります。

岡山先生に教わった五軒のうま店はすべて行きました。また、休みの日は図書館めぐり。自転車を買って、二時間かけて国立国会図書館に行ったら日曜は休館日、ということもありました。でも自分の書いた本をちゃんと納本したので私が死んでも本は残ります。児童文学作家の木村研さんにさそわれて伊豆の「絵本の家」を訪れた日は忘れられない一日になりました。

受講生

司書



一期一会

錦織 明

分

のことは自分でやるという学生生活を忘れず、斎藤先生が言われた「主人在宅ストレス症候群」から妻を守るう・・・

先生方、事務室の皆さん、そして、一緒に学んだ受講生の皆さんには心から感謝いたします。皆さんとの出会いを一期一会として大切にしていきたいです。

私が司書講習を受講しようと考えたのは、昨年8月から非常勤職員として勤め始めた公共図書館での仕事で、とてつもなく楽しかったからです。ほどなく、図書館の本を利用しなくて来館する利用者、手助けが出来る図書館員になりたいと考えるようになりました。そして何をどう学んでいけばいいのか指針を得るために、体系的・系統的に図書館について学ぶことが出来る司書講習を受

さまざまな方々の尽力

がとうございました。

受講生

司書補



私の貴重な夏

菊池 由紀

私は、幼稚園に、(通算)10年勤めておりました。読み聞かせのご縁で、学校の図書室のお手伝いをいたしました。

図書館について勉強したく、(年齢・体力・将来の事をチャットと考えました)受講するなら今しかないと思ひ、応募した次第です。

この講習で、図書館全般にわたり、広く、深く教えていただきました。印象深かったのは、図書館のデジタル化です。1990年代半ばからの、インターネットの登場で、情報提供のあり方が変化し、今後もデジタル化はさらに加速するよう、図書館は、大きく変わりつつある流れの中にある、ということ。しかし、デジタル・イミグラン

なら知っているけど…状態でした。でも、レファレンスの演習では、資料を調べていくうちに、思わぬ発見があったり、啓蒙されたり、結局は自分のリソースになり、次へのステップ・アップにつながると思ひました。また、それぞれの試験では、独特の緊張感の中、限られた時間内で、脳細胞をみんな目覚めさせ、フル回転させて取り組む、日常生活にない、得難い経験でした。そして、年代の違う皆さんと、上手くお話できるかしらという心配は、杞憂でした。皆さん、明るく、魅力的で、気さくで、心優しい方ばかりで、休み時間のクラスメイトとのおしゃべりは、とても楽しいひとときでした。

情報リテラシーを磨き、辛いときに力をくれた本と関わりながら、これから、なんらかの形で、お役に立ちたいと思っております。最後にになりましたが、沢山のレジュメをご用意下さり、熱い授業をして下さった先生方(教科が終わる度に、次はどういう先生がどんな事を教えて下さるのか、それは楽しみにでした)、スタッフの皆様、元氣なお声をかけて下さった警備の方、お教室他をきれいにお掃除して下さいました方、大学の図書館の職員の皆様、サポートをしてくれた家族、そして、ステキなクラスメイトの皆様、心から感謝申し上げます。貴重な夏でした。本当に有り難うございました。

受講生

司書補



実りの夏

永井 里佳

冷夏といわれた今年の夏は、例年以上に時の早さを感じさせられたような気がします。講習に入るまでは、2ヶ月という期間が長く長いものだと考えていましたが、終わってみると全てを細かく回想できる程、充実した毎日でした。

私は図書館員として成長したいという思いから、公共図書館に就職して3ヶ月足らずでこの講習に参加しました。慣れない環境での学習、また入寮して集団生活に馴染むことができたのか、不安を抱えて横浜に来たことを昨日のこのように思い返すことができます。年齢も社会経験もさまざまなが、まったく問題ありませんでした。休み時間に談笑したり、弱音を吐いたり、同じ境遇でしか味

わえない感情を共感できて日々向上心を持つことができました。寮では、講習生同士ですぐに打ちとけることができ、また食事が充実して4kgも太る始末です。これは少し問題でした。授業の点でいうと、常に笑いの起こる授業、出欠表が回されてきても無視したくなるほどのスピードで進む授業。実力とユーモアを兼ね備えた素晴らしい先生方のおかげで、とても刺激的なものでした。最前線で活躍されている先生方だからこそ聞ける図書館の現状、未来像などリアルで貴重なお話をたくさん吸収することができました。

しかし短期講習で内容が詰まっていたこともあり、ある授業を終えた時、私の脳内記憶の空き容量

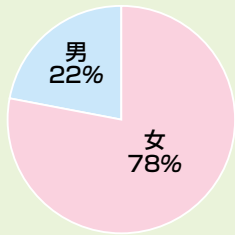
はほぼ限界を迎えていました。覚えようとしてもデータがいっぱいです。という脳内サイロが点灯してしました。そんな時は、休みの日に図書館巡りしたり、観光したりすることでリフレッシュし、寮に帰ると仲間が笑顔で迎えてくれました。教室内もそうですが、講習以外の周りの環境が恵まれていたからこそ乗り越えられたのだと思ひます。この年に、この場所で、このクラスで学習できたことを幸運に思ひます。講師の先生方、事務局の皆様、寮のみんな、職場関係者、そして204教室で同じ瞬間を過ごした仲間へ感謝いたします。

アンケート

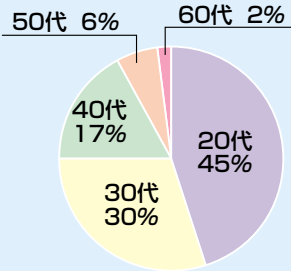
◆平成21年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=135名/151名)

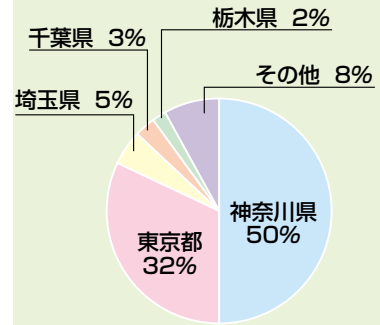
男女別データ



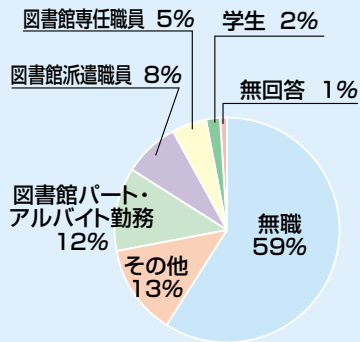
年齢別データ



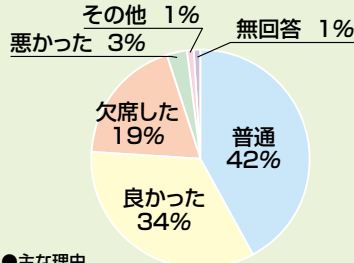
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について



●主な理由

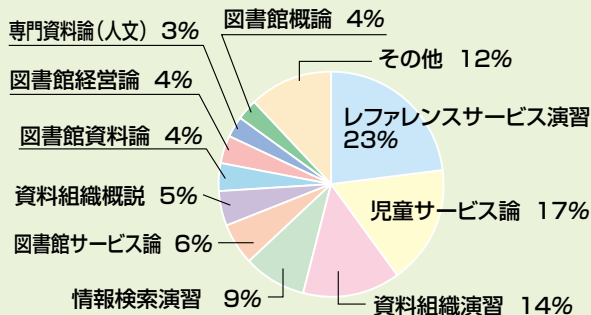
- 普通...**
- 英語での講演は慣れていないので戸惑った。
 - 進行が早く、もう少し落ち着いて話を聞きたかった。
- 良かった...**
- めったにない機会で、貴重な時間だった。
 - 海外の図書館員養成についてのお話は興味深かった。
- 悪かった...**
- 通訳を介しての講演だと、内容が理解しがたい。

感想

●主な意見

- ・2ヶ月間長いようであったという間だったが、楽しく勉強できた。
- ・OA研修室のパソコンが重かったため、授業に支障をきたした。
- ・全体的にクーラーがきつかったが、施設自体は充実していたし綺麗だった。
- ・講習を通じて出会えた友人・講師の先生方に感謝したい。
- ・すばらしい図書館で感動した。これからも使用させてもらえるのは嬉しい。
- ・寮に入っていたのですが、とてもキレイでよかったです。
- ・暑い夏の講習ということで、最後まで出席できるかととても不安でしたが、先生方、事務の方たちのおかげで何とか最後まで全出席することができました。

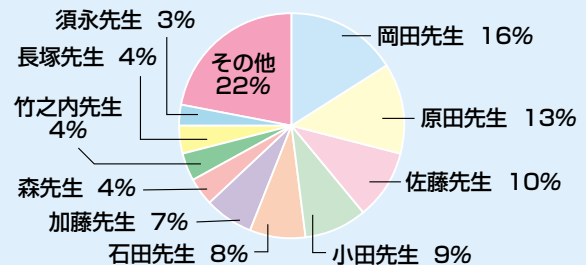
印象に残った科目 (複数回答)



●主な理由

- ・レファレンスサービス演習... 短い時間で苦労もあったが、終わった時には達成感がありやりがいのある演習であった。
- ・児童サービス論... 現場での体験談を聞く事ができ、今後に役立つと感じた。
- ・資料組織演習... 短時間での習得は大変だったが、丁寧なご指導を受けた。
- ・図書館サービス論... 試験の答え合わせして頂き、理解が深まり有難かった。

印象に残った講師 (複数回答)



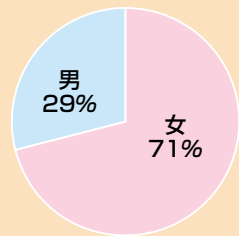
●主な理由

- ・岡田先生... 温かい人柄で、受講生のペースに合わせて丁寧に講義して下さった。
- ・原田先生... 国内外の最新の図書館事情を教えて頂き、図書館の多面性を知ることが出来た。
- ・佐藤先生... 現職の先生だったので、プロの仕事ぶりに触れられた。
- ・小田先生... 教え方に無駄がなく、熱心に教えていただいた。

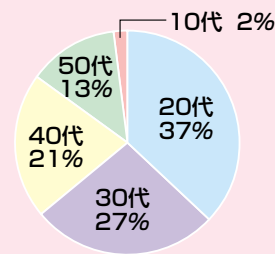
アンケート

◆平成21年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=53名/56名)

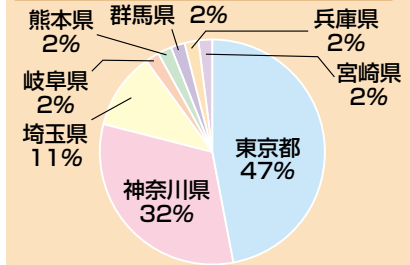
男女別データ



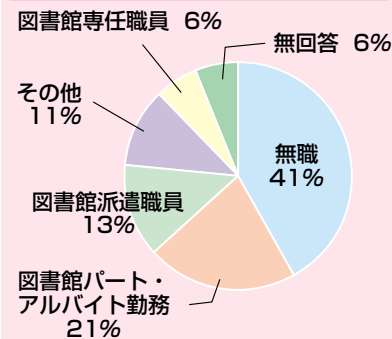
年齢別データ



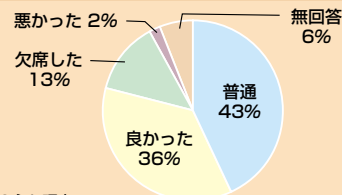
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について



●主な理由

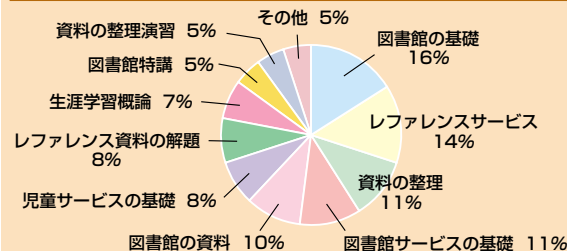
- 普通…シンガポールの現状に触れることが出来てよかったが、日本語での講演がよかった。
- 良かった…海外の図書館事情が聞けた事は貴重な経験だった。講師の人柄の良さに好感ももてた。悪かった…内容が分かりづらかった。

感想

●主な意見

- ・短い間だったが、内容の充実したより良い授業を受ける事が出来て感謝している。
- ・毎日通って、講義を受ける事や試験を受ける事は学生時代ぶりで大変だったが、有意義な時間だった。
- ・この講習に参加できたことは貴重な財産になった。この経験を今後活かしていきたい。

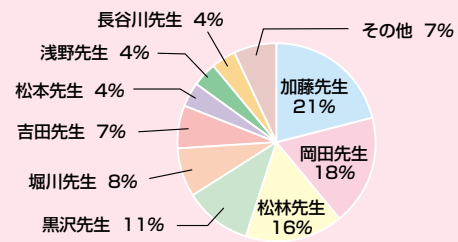
印象に残った科目 (複数回答)



●主な理由

- ・図書館の基礎…お話が面白く、充実した講義内容だった。
- ・レファレンスサービス…実際の作業が楽しく、勤務する上で非常に役立つと感じた。
- ・資料の整理…先生の説明が大変分かり易く、楽しく勉強ができた。
- ・図書館サービスの基礎…とても濃縮された授業でハードだった。

印象に残った先生 (複数回答)



●主な理由

- ・加藤先生…図書館への熱意を感じた。体験談や貴重なお話はためになった。
- ・岡田先生…明るい雰囲気です丁寧な指導をしていただいた。
- ・松林先生…授業は厳しさもあったが、内容はとても充実したものだ。
- ・黒沢先生…経験豊富で、特に読み聞かせが素晴らしかった。

■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)の開講以来、今年で55年目を迎えました。この間、優秀な修了者を多数輩出し、多くの先生方によるご指導を受け、本学の講習は成長してまいりました。そして昭和38年には「一夏会」が発足し、この会報の由来ともなっております。また、平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。

施設面では、約60台のパソコンからなるOA研修室、74万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了者を誇りにこれからも発展を続けていきます。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。このアンケート結果を参考に今後もより良い講習にしていきたいと思っております。また、この一夏会報を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生方・受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。